



## 「明治維新の女性活躍」

滋賀銀行 取締役副頭取 高橋 祥二郎

昨今、マスメディアや普段の会話で「女性活躍」という言葉をしばしば耳にします。NHKの大河ドラマや連続テレビ小説では、篤姫、新島八重、杉文、広岡浅子など明治時代を生きた女性が政治・経済・教育など、さまざまな分野で活躍する姿が鮮やかに描かれています。明治維新という激動の時代を乗り越え、今日の日本に影響を与えたヒロインたちの活躍は、現代に生きる私たちに勇気や希望を与えてくれました。

いずれの女性も開拓者精神に富み、傑出した行動力とその意識の高さには目を見張るものがありますが、封建的な時代にあつて、彼女たちの行動を受け入れる「土壌」が当時の社会にあつたことにも驚きを覚えます。事実として、近代国家を目指したこの時代には、そのほかにも多くの女性が活躍しています。

現在の日本社会は、急速な少子高齢化と人口減少により、経済・財政・福祉・教育など、さまざまな社会的課題を抱えており、その課題克服のためには、女性や高齢者、障がい者など多様な人材の活用・活躍が欠かせません。政府も本年4月施行の「女性活躍推進法」を成長戦略の柱に位置付けるなど、女性活躍の場を広げようとの社会的機運も高まってきました。

私たちの周りにも、結婚、子育て、介護を乗り越えて、活躍される女性が増えています。あえて「土壌」を作らなくても良いのでは、といった議論もありますが、女性のライフイベントを踏まえたさらなる態勢整備と機会均等への理解が必要です。明治維新で女性が活躍したように、女性の個性と能力が十分に発揮できる社会の実現こそが、日本成長の“エンジン”となる、と考える次第です。

### 県内データ あれこれ

### ホテル・旅館客室数推移

## 宿泊施設確保が今後の課題に

### ～客室数の増加を上回る宿泊需要～

インバウンド（訪日外国人旅行）の増加や近年の円安による国内旅行回帰により、都市圏においては宿泊施設の不足が大きな問題となっている。滋賀県内においても、直近のホテル客室稼働率が予約をとりにくいとされる80%を超えるなど、一部では宿泊施設不足が発生しているものと考えられる。

図はホテル・旅館客室数および延べ宿泊者10万人当たりの客室数の推移を表したものだ。直近2014年のホテルと旅館を合わせた客室数は1万4,900室で、07年との比較で2,274室の増加となった。内訳をみると旅館は07年との比較で330室の減少。一方、ホテルについては2,604室の増加となり大きな伸びをみせた。

延べ宿泊者10万人当たりのホテル・旅館客室数をみると、延べ宿泊者数が大きく増加に転じた10年頃より大きく低下し、直近の14年では322室となった。これは全国平均（326室）を下回り、全国でも37位の低水準だ。県内の宿泊者数は足元でも増加基調にあり、水準はさらに低下しているものと推察され、県内においても大都市同様

に宿泊施設の確保が課題となりつつある。

旺盛なインバウンド需要の取り込みや、24年の国体へ向け、政府がルールづくりを進める民泊等も含め宿泊施設の整備が求められる。

しがぎん経済文化センター 吉川 友

